

あいちゃんだより

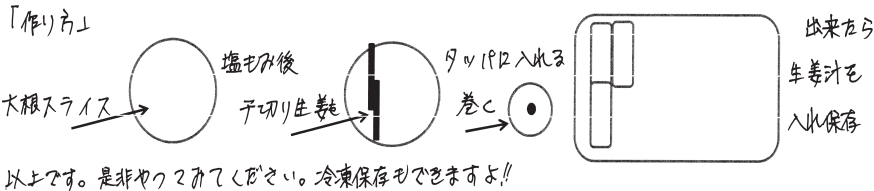
全日食子エー 相長 美原店 銚路市美原4丁目1-8 ☎39-4141 営業時間 AM9:00~PM7:00	美原小学校 美原郵便局 銚路信金 ● 美原交番 ●
相長 芦野店 銚路市芦野1-1-7 営業時間 AM9:00~PM8:00 ☎36-8881	相長 星が浦店 銚路市星が浦大連2-7-1 営業時間 AM9:00~PM8:00 ☎52-1772

2016年5月
第63号

今年の母の日は早かったですね。来年は14日になるようです。今から102年前にアメリカで正式に母の日は第2日曜日と制定されたからイタリヤやトルコ、そして日本も同じですが、エジプトは3月、タイは8月など国によって様々です。もしも忘れても遅れてエメネを添えて、自分の命を守り育ててくれた母に感謝!

こんにちは、久しぶりに登場してきました星が浦店の阿部です。今回は、母の味をお届けしたいと思います。母は大正生まれ今年で、なんと91歳になります。まだ自分のことは、人でも出来るほど頑張つて毎日を過ごしています。そんな母ですが、自分で料理はほとんどしなくなりました。それで毎年何回か作ってくれている大根の生姜巻が、私は大好きです。甘酸っぱい味のほかに赤みがかつた大根を食べると「赤みくろ長生きして」と心で祈っています。至ってシンプルなお作りですので、ご紹介したいと思います。

大根は太い物で、直径が9~11cm程度・千切り生姜とその汁・タッパーだけ。大根を輪切りにスライス「0.8x0.9cm」スライスが出来たら塩をみせ、後水で塩出しをする。塩出した大根で生姜を巻かれます。それとタッパー等に入水筒に入れて並べた後最後に生姜汁を加えて味がなじみまで冷蔵庫などで保存する。「酸味を柔らかくするならば砂糖を加えるが、甘酢生姜汁を使うのも良いです」



いつもご来店、ご利用いただきましてありがとうございます。芦野店鮮魚担当の五十嵐です。風薫る季節となりグルメフェスティバルと共に端午の節句、又「母の日」と五月は祝い事がありましたね。そんな行事に欠かせなかつたのが「ちらし寿司」で母の思い出の味です。子供の頃、旬に誘われて台所に行く。テーブルの上には、所狭しと色とりどりの具材が並べられ、それを見ているだけでも嬉しくて盛り付けている時も「ワクワク」感動して見ていました。そんな楽しい思い出を作ってくれた母が七くなくて15年。優しい母の味が懐かしいです。いよいよ銚路も桜の季節になりますね! 暖かい日にはバーベキューはいかがですか? 「カキ」「ホタテ」「ツツ」など新鮮な商品をご安価で販売しております。どうぞ、今後共相長芦野店を宜しくお願い致します。



私は、芦野店惣菜の石村です。私はあまり料理が得意では無いので子供が私の料理を好きな日は母の角煮かな。時々しかしないが良く食べると美味しい。私の母は私とちがって料理が得意な人です。特にこの花菜、おいしいから。私も仕事で作ります。母は少し甘め、山菜が入った時と母は山菜取りにも行っていた。季節の山菜が入ったこの花菜です。



社長通信 No.68

「あいちゃん(私事)、さきお袋古くなったわ〜」「え〜……(マジ?ほんと?と言いつにきた)」それは4月の月末、そろそろ昼飯という時間にかかっていた。亡くなった私の父の親友の息子からの電話。おぼろは4年前にご主人を亡くした後から、肺炎をこじらせるようになって、奥の弟が2月に逝った後は寝たきりになって、当日朝に静かに目を閉じたと言葉の向こうから、ぼや〜と聞こえてくる……。

振り返ると、あれから38年経ったのに昨日の事のように思い出されてきた。全く地理も分からない仙台で大学生を送るのに、住場所を本家のおじさんに任せられた結果、築50年は経っていたであろう木造2階建ての板張りの寮で2段ベッド、2人部屋。窓から見える景色はお寺が多いと思えば……. なんとお墓に囲われている。しかも寮生は柔道部を中心とした体育会系に囲まれて、何をどうにも騒がしく芋洗状態? そんな寮生活に疲れた時や仕送りを便に果した時に駆け込むおぼろは仙台の母!! 父同志が空蘭商業高校の同級生だとかから、その息子達も同じ大学に入れた縁に繋がって、家族のように可愛がられた。お彼岸に作ってくれるずんだ餅(おぼろの館が枝豆をすりつぶす物)や、はっと(油麩を入れたすいとんみたい(百汁物)など初めて食べたのもあったが、一番の思い出の味は湯豆腐。見本通りに豆腐の入った物しか知らなかったが、そこに魚(イラ)と豚(バラ)も入って、絶妙に美味しいのである。それを肴におじさんと息子と飲む津霞や一蔵など官城の地酒がス・ム。すすむ!! それと手早く作ってくれた親子丼も忘れられない(母) おぼろ〜ん、これからはそろそろおじさんに代わって作って下さい。うめがけよ! ンです。合掌。



愛国プー横丁 ちえ店長の 今月の 窓可可め窓



「うめじいのたんじょうび」かがくいひろし 講談社
梅干しのうめじいは、どうやら大層な高齢のようです。小さな漬けもの仲間が、一体何才だろうと尋ね歩きますが分かりません。小さな漬けものたちの会話も、漬けもの石のじいちゃんとうめじいのとぼけたやりとりもとても温かくて魅力的。2009年に亡くなられた、かがくいさんの最初の作品だそうです。もっと早く読みたかった! という思いもありますが、とびっきりのおまけをいただいた気がします。